

第17回鳥栖市総合教育会議 議事録

会 議 名	第17回鳥栖市総合教育会議
日 時	令和5年1月13日(金) 開会 午後1時30分 閉会 午後2時45分
会 場	市役所3階第1委員会室
公 開 ・ 非 公 開	公開
出 席 者	構成員：橋本市長、佐々木教育長、古澤教育委員、森田教育委員、 大石教育委員 事務局：小柳教育部長 佐藤教育総務課長 城島教育総務課総務係長 説明員：古賀学校教育課長 犬丸学校給食課長兼学校給食センター所長 牛嶋生涯学習課長兼図書館長 日吉学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事 長野学校教育課長補佐兼インクルーシブ教育推進係長
傍 聴	0人
協 議 事 項	◆部活動の地域スポーツ化について
発 言 者	内 容
橋本市長	<p>時間になりましたので、第17回の総合教育会議を始めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>今日は「部活動の地域スポーツ化」について、ご議論いただきたいと思います。ただ今回については、自由なご意見をいただいてヒントをつかめるようなブレインストーミング的な会議に出来たらと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>では、事務局から国のガイドラインや現状についてご説明をお願いいたします。</p>
日吉学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事	(資料に基づき説明)
佐々木教育長	<p>私自身は、これまでの部活動の在り方は比較的大事だと考えていました。日本の教育が全人的教育であったりして、そこで単に競技力向上だけではなく、仲間を組んだり、コミュニケーション能力を身に付けたり、自主性を育てたりということがありますので、それが学校から切り離されるといところが自分の中で腑に落ちていないところがあります。それで、先ほど説明があったように、これまでの部活動の良さというものも残していきたいと思っています。そ</p>

	<p>うなると、地域に移行したときに、その全てをお願い出来るのだろうかという思いもあります。</p> <p>ただ、私自身がこれまでの部活動の考え方を改めないといけないとも思っています。「これからは、生涯体育のように運動に親しむというところは、体育の授業でやっていくというように切替えなければならない。」ということを目指されている方もいて、その方向性も大事だと感じています。現在は、私自身の考え方を、学校教育はあくまでも教育課程内での活動だというようにシフトしなければならないと努力しているところです。</p>
森田教育委員	<p>「フィッ鳥栖」でも、最近小学生のソフトボール部の活動を再開したのですが、現在中学校にソフトボール部がないので、土日だけでも中学生の活動が出来たらいいなと考えています。ただ、試合の問題があるので、現在は中学校対抗になっているものを、地域クラブも参加出来るようになれば、参加したい子どもたちが増えるのではないかと考えています。</p> <p>先ほど教育長がおっしゃられた「学校での生涯体育」ですが、子どもたちの中には、学校の体育の授業がすごく怖くて嫌という子もいます。うちでは、そういう子たちを対象として「体を動かして楽しもう」というような教室を開催しています。そこで、その子どもたちはすごく喜んで活動をしてっていますが、その子どもたちが中学生になったときに部活に入るのかというと、今のやり方だと入れない子がいるのではないかと考えています。そのため、私はそういう子どもたちを受け入れる場所を、市内の色々な地域でつくったら良いと思っています。そうすると、次のステップになっても、高校での部活やスポーツに関わっていきたいという子どもたちが増えていくのではないかと考えています。</p> <p>ただ「フィッ鳥栖」が中学生の部活を引き受けるとなった場合には、まずは小規模のクラブから始めて、少しずつ活動を広げていくことになると思います。そこには、保険や指導者の確保等の問題もありますが、指導者が手を上げやすいように無料ボランティアでなくて謝金をお渡しするように出来れば良いと思っています。</p>
橋本市長	<p>森田教育委員ご自身は、どういう形でトレーニングを行っていたのでしょうか。</p>
森田教育委員	<p>中学校に陸上部がなかったなので、通常は別の部活に入っていて、中体連の前に2週間くらい練習をして試合に出ていました。そのように、例えば陸上部にも参加しながら、ソフトボールの練習をするとかいう形がとれると、その種目ごとで体の使い方も違ってくるし、動き方も変わってくるので、動きのバランスが取れて良いと思いま</p>

	<p>す。特定の種目だけではなくて、色々な種目を体験できる地域クラブがあってもいいのではないかと思います。</p>
佐々木教育長	<p>今「フィット鳥栖」で活動されているように、「子どもたちが自分の興味のある運動であったり、スポーツであったりというものを選択して行っていく」というようなところをつくって行って、その中で、体力の向上、コミュニケーション能力の向上、自主性というのを身に付けていかなければいけないのかなと思います。</p> <p>それで、今の部活動で一番問題なのが指導者のことであって、そこに教師の働き方改革という問題が出てきたので、余計にその問題がクローズアップされている。それから小規模学校では種目ごとにメンバーが集まらないという問題もあって、それらの対応策として学校から地域に移行していこうということになっていると思います。</p> <p>そうすると、今後やるべきことは、子どもたちの狙いとする場合に合った環境を整えてあげることだと思います。例えばサッカーやバレーボールといったように、競技を極めていくようなスポーツクラブは現在でもあるわけですよ。子どもたちが、そこを狙いとする場合には、月謝を払ってでもそこを選択して行っているのもそれはそれで良いと思います。行政の役割としては、それ以外の子どもたちが、気軽に選択して活動できるような環境を整えてあげることだと思います。それを解決する方法が、先ほどお話があったように、学校単位ではなくて、地域単位や中学校合同でクラブ活動も出来るようにすることではないかと思っています。ですから、段階的ですけども、学校単位というよりも、地域単位で競技を選択できるような環境を整えていく必要があるのかなと考えています。</p>
橋本市長	<p>質問ですが、指導者の育成や確保、場所の確保といったことに対する費用負担はどうなっているのでしょうか。</p>
日吉学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事	<p>予算措置の要望は出ておりますが、現在のところ明確な回答は出来ません。</p>
森田教育委員	<p>教育長がおっしゃられたように出来るのであれば、例えばサッカーやバレーボールのように競技力を強めるクラブと、例えばバスケットボールが好きだから競技を楽しみたいけど、そこまで競技力を向上しなくてもいいというクラブとかがあってもいいのかなと思います。確かに試合に出たいと思う子どもたちもたくさんいると思いますが、でもその中には、バレーボールは好きだけど競技力を強めていくクラブには入りづらいという子どもたちを受入れられるようなクラブがあればいいかなと思います。バレーボールをしてみたけど、</p>

	<p>ちょっと違ったからバスケットボールに行くというように、楽しいから体を動かしたいからっていう子どもたちは、何人もいると思います。その中から、また選手として頑張りたいと思うのであれば、競技力を強めていくクラブを紹介していくのも一つなのかなと思います。学校単位を少し崩して、地域ごとという方向性があるのであれば、そういった在り方もあっていいのかなと思います。そうすることで、子どもたちの精神的な負担を軽減出来るのではないかと思います。</p> <p>ただ一番気がかりなことは、指導される方々に対しての報酬についてです。今は学校で部活動があるからスポーツが出来ているけど、地域に移行していくとなると、競技力を持っていてスポーツはやりたいけど、家庭的な問題があって出来なくなったというような子どもたちも中には出てくると思います。そういったところを心配しております。</p> <p>ただ、地域に移行していくとなると、そういった場所も必要なのかなと考えています。</p>
古澤教育委員	<p>私がまず一番気になるのは、鳥栖市内にどのようなスポーツクラブがあるのか、個別では情報として持っていて、詳しいことは知らない方のほうが多いのではないかなということ。例えば「フィッソ鳥栖」で実施されているスポーツやそれに関わっているコーチの情報をしっかり周知していただくと、加入してみたいという子どもがもっと増えるかもしれません。この地域移行の大きな受皿の一つになり得るのではないかなという期待を込めてお話をさせてもらっています。</p> <p>それと教育長がおっしゃいましたように、基里中学校の生徒だけでは競技の継続が難しいということであれば、鳥栖中学校や田代中学校と合同チームを作るというのは、非常にいいアイデアだと思います。ただ、練習場までの送迎をどうするのかという費用関係も問題として出てくるかなと思います。ですから、これから先は、市の教育委員会として、そういった部分についても含めたところでしっかりと協議していく必要があるのかなと思っています。</p> <p>それと、これまで部活動に熱心に関わってこられた先生方について、地域の受皿となった指導者とどのような関係を築いてくのかということを考える必要があると思います。また、部活動の中で体罰などがあった場合には、一定の方針に基づいて処罰されているかなと思っているのですが、地域に移行した場合には、そこら辺はどうなるのかということも懸念としてあります。</p>
大石教育委員	<p>この場で、本市のことについて議論させてもらっているところで</p>

	<p>すが、先に中体連大会を一体どのようにするのかということを決めておかないと、県内で足並みを揃えなければならないといった部分があったということになれば、今の議論が無駄になってしまう可能性があります。その辺は今どういう方向で検討されているのかというのはお分かりになりますでしょうか。</p>
日吉学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事	<p>ご質問いただいた中体連大会等に関しては、これも最も気になるところの一つであります。</p> <p>今整理がなされている途中で、地区大会レベル、県大会レベル、九州ブロック大会レベル、そして全国大会レベルというところで、競技ごとに対応の違いがあるということで、学校の代表として出る、地域の代表として出る、あるいは両方が出られるような体制づくりを整えていく必要があるということです。</p>
大石教育委員	<p>ありがとうございます。例えば二つ三つの中学校の生徒たちが集まって作るチームと、片や一つの中学校だけで作るチームがあると、色々な弊害が出てくるのではないかという気がしていますので、そこら辺は出来るだけ早めに方向性を定めていただくようお願いしていただきたいです。</p> <p>あとは、部活動は、基本的に体づくりであったり、コミュニケーション能力の向上であったり、精神面を鍛えるとか色々な部分で必要なものですが、これだけ多様性が求められている時代になっていますので、様々な部活動の考え方も出てくるのではないかと思っています。「eスポーツ」や「メタバース」の中でコミュニケーションを取るというスポーツもあつたりしますので、今後は新しい部活動の考え方が必要なのかなと思っています。</p> <p>ただ、それを始めるにあたって、地域人材の力をお借りしなければならないとなった場合には、小規模校である基里中学校から少しずつチャレンジも含めて行っていくのがベターなのかなという気がしています。指導員になってくださる方の中には、毎日は無理だけど、週に2日だけだったら出来るという方もいらっしゃると思いますので、小規模、中規模、大規模の三つぐらいの段階的な部活動という形で検討していただくと、先ほど森田委員もおっしゃっていたように、体を動かすことが苦手な子たちは小規模なところで体験的に部活に触れてもらうとか、そのような形で段階的に進めて行くのもいいのかなと聞いていて思いました。</p> <p>それから、生徒たちのことが議論の中心にはなるのですが、保護者の理解がなければなかなか難しいので、そこも並行して議論をしていければいいかなと思っています。</p>
森田教育委員	<p>先ほど大石委員さんがおっしゃっていた関係ですが、多久市では</p>

	<p>中学校が三つあって、三つの中学校で例えば、A校で野球、B校でバレーボール、C校でソフトボールというように分かれていて、学校にあるバスを利用して練習場まで移動しているそうです。ただ、部活が終わって自宅に帰宅するときは、保護者の迎えになってしまうという点が問題になっていて、そこをこれから改善しなければいけないという話を聞いています。</p> <p>それから「フィッ鳥栖」ですけれども、委託事業を色々実施させていただいて、小学校の1つの教室で、例えば30人の定員に対して、50・60人の申込みがあっただけで、それを全部受け入れられるような種目だったら受け入れるのですが、種目によっては抽選を行ったうえで、不参加の決定のお知らせをしているという状況です。また、謝金につきましては、講師1人に対して1回5,000円、アシスタントの方には1回3,000円で運営させていただいています。</p> <p>あと、「フィッ鳥栖」独自で「チャレンジスポーツ教室」を年間10回ほど実施しています。そこでは、バスケットボールやサッカー、室内で出来るビニールボールを使った野球やレクリエーションを行っていて、そのメニューの中には、運動が苦手な子でも、少しずつ楽しく出来るような種目を入れてあります。その子どもたちが、スポーツをして喜んでいる様子を見てみると、やってきてよかったなと感じながら行っている状況です。</p>
橋本市長	学校の現場の声を聞かせていただければよろしいでしょうか。
古賀学校教育課長	<p>学校現場といたしましては、二つです。</p> <p>一つは、自分の専門性のない競技を指導せざるを得ない先生方にとっては、部活動に対して大きな負担感があるということです。この地域移行に関する報道が出たときに、来年度から既にそうなると思った先生方もいるぐらい、部活動の地域移行に対する気持ちが強い方もいらっしゃると思います。</p> <p>もう一つは、熱心に部活動指導をしていらっしゃる先生方にとっては、休日も含めて指導していきたいという気持ちがあるということです。この報道が出されたときに幾らか話題となりましたが、そのような先生方については、兼務をかけることも可能という見解も示されました。実際に地域移行となった場合でも、指導者を兼務する先生方も出てくるのではないかと考えているところです。</p> <p>先ほど予算措置等も質問に出ましたが、確か報道で国の会見等を聞いたときには、「予算措置についても検討していく必要があるだろう」ということでした。ただ全額国が負担するわけではな</p>

	<p>いだろうなどは思っています。これから先、ある程度先を見越して考えておかなければならないと考えています。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>ありがとうございます。色々なスポーツ競技団体の皆さんと話をしていると思うのは、鳥栖市はとっても恵まれているところなので、結構なことが出来るのではないかとこの可能性が非常にあるということです。多分、人口の少ないところに行けば行くほど「生徒が少ない、指導者を見つけるのが難しい、活動場所の確保が難しい」といった問題が大きくなってくると思います。それに比べれば市内には「サガン鳥栖」や「久光スプリングス」といったプロスポーツチームがあり、「体操クラブ」や「駅伝クラブ」などのレベルの高い皆さんが活動されているクラブがあります。</p> <p>行政の役割としてこれから意識しなければならないと思っていることは、選択肢をたくさん用意してあげることだろうと思っています。森田委員がおっしゃるようにスポーツが得意じゃないけどやってみたい子が通える場所、あるいは競技力を高めていきたいという子が通える場所など、色々な選択肢を用意してあげて、自分が向いたところに通えるような、それを支えるような仕組みをどう作っていけるかが、行政の役割だという気がしています。そこには能力がすごく高いのに、資金的なこと、そこに通えない子をどうサポートしてあげるとかという仕組みも考える必要があると思います。</p> <p>「久光スプリングス」が、実際に神戸市の練習拠点で実践しているらっしゃる練習プログラムを、先日本市で初めて行っていただきました。それは、子どもたちを対象とした1時間半のプログラムで、音楽に合わせて踊るなど、5分ごとぐらいにころころと内容が変わるものなのですが、全ての内容にバレーボール練習の要素が仕込まれて、みんな物凄く楽しげにゲームをしている感覚で体を動かしているのですが、90分間プログラムを終えたときには、一定の効果を残すというかそういうものがそこに仕込まれているというものです。それで、本市でもウィークデーは中学校の部活でバレーボールの練習をして、土日は「久光スプリングス」プログラムに参加をして練習をするというような展開も考えられます。サッカーについても、同様で、そこの中で秀でている子をユースに誘い入れるというような話が出てくるような形が出来るのかなという気がしています。</p> <p>それで、あとはコーチをしていただく方ですが、学校の先生で部活動に熱心な方がそれなりにやれる体制をどう構築していくのかということだと思います。鳥栖ならではのスタイルを作れたら、多分それが出来る場所だと思います。例えば文化系のことでも、学校は</p>

	<p>不登校だけど「キッズミュージカル」には来ていて、居場所が見つかったという子も結構いるので、そういうものも、たくさん選択肢を用意してあげて、いわゆるアウトリーチできる場を提供していくことを続けていきたいと思っています。</p> <p>私は、恐らく部活動は全廃出来ないと思うと思っています。地域スポーツが根づいているというドイツから見ても、日本の部活動は高く評価されているわけですから、その部活動の良さを維持しつつ、地域スポーツとどう融合していくか、その中でたくさんの選択肢を提示して、それを支える仕組みを作って何かやっていけたらなあという感じを持っております。</p>
古澤教育委員	<p>数年前に、コミュニティ・スクールを導入したときも、先進地を視察してしっかりと学んだうえで、本市でも実践したという経緯がございます。同じように、この地域移行についても、先進地があればご紹介していただきたいです。</p>
大石教育委員	<p>先ほど古澤委員もおっしゃったとおり、本市にはコミュニティ・スクールがあります。それはとても凄いことだと思います。まさに、学校を中心とした地域づくりになる場所ですので、各校区で委員のメンバーは違うと思いますが、様々な方々が一堂に会して校長先生と熟議する機会もあります。そういったところでより深く広く地域人材の発掘も出来るのではないかなと思っています。今後そのような場を活用して取り組んでいけたらいいのかなと思っています。</p>
古澤教育委員	<p>今の大石委員のお話に関連しますが、やはり人材をどれだけどのような形で発掘していくか、そこには組織力がないと難しいと思っています。一定の人材バンクのようなものが出来上がってきたら、そのクラブごとに人材を動かしていただいていた方がいいのかなと思いますが、そこが動き出すようになるまで行政の力を発揮する必要があるのかなというように感じます。</p>
橋本市長	<p>「地域スポーツを行う場合には、指導者が一定のスキルやノウハウを持っていないと、不適切な指導になってしまう可能性があるのです、そこは一定の枠にはめていく必要がある。」というようなお話を先日していただいたかと思いますが、再度お話していただいてもよろしいでしょうか。</p>
佐藤教育総務課長	<p>私は長年バスケットボール競技に携わっておりまして、佐賀県バスケットボール協会にも関わっております。先ほどのお話ですが、バスケットボール協会としては、コーチの資格を持つ人を登録しようという動きがあります。クラブチームの中で、指導者による暴力・暴言問題等もあっておりますので、コーチの資格を持った人でなければ指導が出来ないという風潮が強くなりつつあります。</p>



	<p>中学校の部活動については、専門外の先生もおられますので、まだ資格を持っていなくても指導してよいということになってはいますが、小学校のミニバスケットボールのチームが九州大会や全国大会に出場する際には、必ず資格を持っている人がいないと試合に出場出来ないということになりつつあります。</p> <p>それで、中学校の部活動でも、資格を持っている人は必ず更新・講習を受けないといけないということになってはいますので、指導者は新たな技術の情報を習得しなければならぬということになっていくのではないかなと思っています。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。恐らく部活動についても、ある程度のコーチングのスキルを持っていないと指導出来ないという時代がすぐそこにあって、そのくくりでいくと一定のレベルを維持しながら、それぞれのスポーツや文化系の活動が出来てくると思います。</p> <p>そこで、コーチ資格取得のための支援など何か下支えが出来るといいと思っています。「コーチ資格取得のサポートをします」と呼びかけをしたときに、「私もやってみようかな」という人たちも出てきてくださるような気がしていて、そこで人材バンクのようなものを作っていければいいなという感じがいたします。皆さんが活躍出来る場をどう作っていけるかということは、知恵を出していきたいなと思っています。</p>
大石教育委員	<p>今市長がおっしゃったように、「サポートするので、誰かいませんか」というやり方は、とてもいい方法だと思いました。もし可能であれば、コーチをサポートする方も一緒に公募して、コーチの負担も軽減できればいいと思います。</p>
森田教育委員	<p>とてもいい意見だと思います。中学生は、口頭で伝えれば理解してくれるとは思いますが、やはりそこにコーチだけじゃなくて、もう1人いらっしやることによって、子どもたちへの目の行き届きが違ってきますので、とてもいいことだと私も思います。</p>
佐々木教育長	<p>今後は、指導者の養成や団体の運営に予算をしっかりと組んで、安定した環境の中でこういう事業を進めていかなければならないと思いました。少年野球や様々なスポーツのほとんどはボランティアで指導をされていると思います。中学校では、ある程度専門的なスポーツや文化活動になってきますので、何らかのサポートをしていかなければいけないということを感じました。</p>
橋本市長	<p>たまさか「久光スプリング」については、今年の5月10日に「サロンパス アリーナ」の竣工式がありまして、そこから本格的な鳥栖での活動が始まるということです。その意味では、地域スポーツの在り方は、最初から一緒に議論に乗っていただけるかなという気も</p>

	<p>しております。また「サガン鳥栖」の高橋義希さんも、様々な形で市の事業に協力をいただいているので、例えば高橋さんのアイデアとかもいただきながら進めていけば、随分違う形での鳥栖だからできる色々な環境整備というのは出来ると思いますので、努力をしていきたいなと思っております。</p> <p>これについては、これから始まることでもありますので、今日議論いただいたものを、もう1回自分で温めていただいて、またご指摘をいただければ有難いと思っております。</p> <p>あと事務局から、あるいは委員の皆さんから、その他ございましたらお願いします。よろしいですか。</p>
大石教育委員	<p>今後の見通しというか、現在決定していることを教えていただいてもよろしいでしょうか。</p>
日吉学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事	<p>来年度から準備段階での協議の場を設けたいと考えております。学校の状況をよりよく把握するために、これまで体育主任会を開催したところでもございますが、あと数回行う必要があると考えています。それと併せて、教育委員会、関係各課、校長の代表、よろしければ保護者の方々にも協議の場に入っただけで有難いと考えております。そこで、本日いただいたようなご意見なども併せて出させていただきたいと考えています。また、まだまだ職員も含めてこのことに関する理解度が様々な状況ですので、これからどのように情報を発信していくのかということも含めてご相談が出来たらと思っております。</p>
古澤教育委員	<p>次回このような会議を開催される際には、鳥栖市の現在の状況を情報収集されて具体的に内容を提示していただけるとありがたいです。そうすることで、より詰めたお話が出来るのではないかと思います。</p>
古賀学校教育課長	<p>本日は「部活動の地域スポーツ化」ということで、ご協議いただきましてありがとうございます。担当課よりお礼を申し上げます。</p> <p>森田委員からお話があったように、運動が苦手な子でも選択できる基礎運動コースのような部を作るのも一つの手なのかなと思えました。そして、先ほどの基礎運動コースや基礎競技コースなどたくさんの方の選択肢を用意して、レベルに合った部に入れるようにしていく必要が出てくるなと思えました。今後、そういったところも含めて検討を進めてまいりたいと思っております。</p> <p>皆さん方には、これからも色々なところでご支援いただく場面が出てくるかと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>
橋本市長	<p>まとめていただいてありがとうございます。次回は、委員の皆さんに市内の実態をしっかり把握をしていただくために、そこに携</p>

	<p>わっている方と通っている子どもたちの状況、あとそこに費用がどのくらいかかっているのかというようなことも含めて、お知らせいただくと、もっと掘り下げた議論が出来るかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。今日はこれで終了したいと思います。ありがとうございました。</p>
--	--